

秋水通信

第29号

2020.12.10

幸徳秋水を顕彰する会
〒787-0010 四万十市古津賀4-41
四万十市生涯学習課内

ホームページ
<http://www.shuusui.com/>
090-6827-9129 (田中全)
E-mail: zen-tanaka@heart.ocn.ne.jp

今こそ幸徳秋水の「非戦論」を

いま日本のジャーナリズムは瀕死状態にある。いや、すでに死んでしまっているのかもしれない。

ジャーナリズムは「社会の木鐸」であり、その使命は権力の横暴を監視、批判することにあるはずである。にもかかわらず、安倍晋三政権の下、報道は政権におもねり、忖度を繰り返してきた。まるで権力の飼犬のように。

現在がそんな状況だからこそ、権力に立ち向かった一人のジャーナリストを紹介したい。幸徳秋水である。

日露開戦の前年、1903年、「ロシア撃つべし」と新聞、世論が沸騰する中、幸徳秋水は堺利彦、内村鑑三とともに開戦論に転じた。「萬朝報」を10月決然と退社、翌月堺と平民新聞(週刊)を創刊した。

秋水は燃えるペンで非戦論を展開した。「戦死者と道徳」「兵士を送る」「戦争の結果」「戦死者の遺族」「戦争と新聞紙」「嗚呼増税」「列國紛争の真相」「戦時と非戦論」など。名文としても知られている。

1904年1月17日の代表的な論説には、次のフレーズがある。

吾人は飽まで戦争を非認す
之を道徳に見て恐る可きの害毒也
之を政治に見て恐る可きの害毒也
之を經濟に見て恐る可きの損失也
社會の正義は之が爲めに破壊され

萬民の利福は之が爲めに蹂躪せらるる
吾人は飽まで戦争を非認す
之が防止を絶叫せざる可らず

秋水は1871年11月5日、高知県中村(現四万十市)に生まれた。土佐の自由民権の空気を吸って育ち、中江兆民に師事し、新進ジャーナリストとして活躍。自由平等・博愛・平和を掲げ闘ったが、政府の激しい弾圧で「大逆事件」の首謀者に仕立て上げられ、1911年1月24日、39歳で刑死した。

秋水の非戦論は反戦平和の原点であり、戦後、永久平和・戦争放棄の日本国憲法9条として結実した。

しかし、戦後75年たった今、安倍政権は解釈改憲によって安保法を成立させ、日本を「戦争ができる国」に戻してしまっている。

来たる2021年は幸徳秋水生誕150年(刑死110年)になる。「幸徳秋水を顕彰する会」(事務局四万十市)では、これを記念し、先のフレーズを右に刻む「非戦の碑」と呼んで、平和を愛し守る国民総意のシンボルにしたいと願っている。

建立場所は秋水墓がある浄土宗正福寺境内(四万十市)。時期は秋水の誕生日(11月5日)にあわせ、来年11月3日の予定。費用に充てる寄付金を募集しています。詳しくは「幸徳秋水を顕彰する会」

ホームページをご覧ください。

(田中全幸徳秋水を顕彰する会事務局長、元四万十市長)

「週刊金曜日」2020年10月2日「論考」欄に投稿

「非戦の碑」建立寄付金募集中

幸徳秋水を顕彰する会では今年7月から秋水「非戦の碑」建立寄付金を募集中です。多くの方のご協力をよろしくお願ひいたします。

1口5千円

郵便振替 0161・7・9071

ゆうちょ銀行 当座 9071

名義 幸徳秋水を顕彰する会

除幕式 2021年11月3日(予定)



非戦の碑建立予定場所
浄土宗正福寺境内



秋水絶筆碑
1983年建立 為松公園

つくつくを聞いて秋水非戦論

四万十市 西岡成人
高新文芸 俳句一席

※つくつくつくつくばうし

幸徳秋水刑死110年、
生誕150年記念墓前祭

日時 2021年1月24日(日)

午後0時30分〜1時過ぎ

場所 四万十市中村 正福寺墓地

※例年の記念講演会・交流会は
「コロナ感染防止のため行いません。」

秋水の師 儒学者
木戸明展

日時 2021年1月16日

4月20日

場所 四万十市立郷土博物館

(為松公園内)

当顕彰会 宮本博行会長
高知県功労者に

地方自治において、開かれた議会づくりを進め、財政健全化、移住促進などにも尽力したとして、11月3日、選ばれました。四万十市議会議員6期21年(社民党)。2017年より当顕彰会4代目会長。70歳。

大逆事件を明らかにする兵庫の会 結成

10月31日、「大逆事件を明らかにする兵庫の会」が結成された。

大逆事件で死刑判決を受けた24人の中の2人、小松丑治と岡林寅松は神戸市の中にいた。2人は高知市出身で、同じ小学校の同級生であり、神戸海民病院で働いていた。日露戦争時、2人は幸徳秋水の非戦論に共鳴、秋水らが発行していた平民新聞の読書会（神戸平民倶楽部）を組織していた。

2人は判決翌日無期懲役に減刑され、長崎監獄に送られた。1931年の仮出獄までの21年間、獄中生活を送った。

「兵庫の会」結成のきっかけは2017年9月、神戸市灘区の「憲法を生かす会、灘」の4人が秋水の墓参にみえ、交流をしたこと。その中の1人、津野公男さんは須崎市出身で幸徳秋水を顕彰する会の会員であった。

4人が中心になって2018年4月、「幸徳秋水を語る神戸のつどい」を開催。当顕彰会も参加。同年10月、和歌山県新宮市での第4回大逆事件サミットにも参加。今年1月には秋水墓前祭に合わせて高知市内の小松、岡林を墓参。10月17日には第5回サミットを神戸で開くことになった。

を継続的な組織として立ち上げようということになった。神戸学生青年センターに「密」を避けて約50人参加。

兵庫の会は大逆事件だけでなく、平民社の果たした歴史的役割や時代背景を学ぶことによって現在の政治状況を考え、改憲を阻止し、平和と民主主義を守る糧としていくという、そんな規約と活動方針が採択された。代表世話人に津野公男さん、稲村知さん、飛田雄一さんの3人を選出した。（サミットはコロナの状況を見て来年以降に延期される見込み）

当顕彰会からは田中事務局長が連帯の挨拶、記念講演は山泉進「大逆事件の真実をあきらかにする会事務局長（明治大 学名誉教授）「大逆事件と今後の運動」

「戦後の復権・顕彰運動」から「大逆事件100年以降」へ。2010年以降サミットが継続的に開かれ、今回の神戸のように各地の運動に新たな広がりが見られるようになり、メディア、出版等でも新しい視点で取り上げられるようになった。第1回サミット（中村、2011年）において「大逆事件の犠牲者たちの人権回復を求める全国連絡会議」を結成したように、今後は「かわいそうな犠牲者たちを助ける運動」に加え「自分たち大切な人権を守っていく運動」へと発展させていかなければならない・・・と話した。（田中圭）



神戸学生青年センター会場
10月31日



岡林寅松墓参 1月23日
左は寅松の妹の孫
徳弘達男さん

幸徳秋水と祖父と私

大熊 平城

授業で幸徳秋水の名が出たとき、初めて聞いたような気がしなかった。音の並びが流麗だったから錯覚を起こしたのか、本当に聞いたことがあったのかは分からない。

高校生のとき社会主義に関心を持った。まず『共産党宣言』と『空想より科学へ』を讀んだ。レーニンの『帝国主義』の次に秋水の『帝国主義』を讀みたかったのだが、絶版になっていた。それで同じ岩波文庫の『兆民先生・兆民先生行状記』を買って讀んだ。古書店で『社会主義入門』の『基督抹殺論』と『帝国主義』を購入したが、まだ読んでいない。

私が受験した大学の入試問題では現代文の代わりに明治の擬古文が出題されることになっていた。秋水を讀むことは趣味と実益を兼ねていたのである。実際に「兆民先生」（行状記の方だったかもしれない）が出題されたときには「しめた！」と思ったが、讀んだことがあるからといって有利になるものでもなかった。

西洋史を専攻したので秋水への関心は薄れた。しかし秋水と同年代の社会主義

者レオン・ブルムを研究テーマに選んだのでさほど遠くへ行っていなかったと言えるかもしれない。ブルムはフランス人、民戦線内閣の首班として知られるが、その思想はアナキズムから革命的社主義を経て民主社会主義に至るまで変化した。秋水が天寿を全うしたならどのような思想遍歴を見せたのだろうか。

迂闊にも、祖父上林暁が秋水を敬愛していたことを最近まで知らなかった。祖父がどこまで秋水に共鳴していたかは不明であるが、文筆家として尊敬していたことは間違いない。思えば史料集に載っていた「自由党を祭る文」の格調が高かったことも私が秋水を讀み始めた理由の一つである。今日、平和を希求する人たちが党派を超え、秋水を文筆家として、多くの偉人として讀めるのは自然なことである。幸徳秋水を顕彰する会が生前にあったならば祖父は入会しただろう。

以上のように自身としても上林暁の孫としても、私には入会の動機があるが、二点付け加えたい。第一に、祖父が「緑のピストル」という随筆に幼き日の私を書いており、これを収録した本のタイトルが「幸徳秋水の甥」であるということ。

実際、子供の時分にその名を聞いたことがあるかもしれない。第二に、裁判所が私の研究者としての人格を全否定し、祖父の「ツエペリン飛行船と黙想」を『戦意高揚』の詩だとする判決を言い渡した。大逆事件とは比較にならない民事事件であるが、祖父と私もこの国の愚かな司法の犠牲者になった。非戦の碑建立に賛同しないでいられるだろうか。



作家上林暁は大熊さんの祖父

秋水の墓はいつ作られたのか 広井健二

このテーマは、今尚謎である。私はこの謎に挑戦すべく多くの文献を調べたが直接証拠を発見できなかった。しかし、状況証拠(間接証拠)は発見できた。まず、現在の墓石に関する情報。

①購入⇒発注時期。一般的に墓は、九〇パーセント以上の人が一回忌までに購入。

②製作期間。石材店に頼んで墓ができるまでに二〜三か月かかると言われている。もし、展示品や在庫品で可というのであれば、彫刻と据え付けだけなので一か月程度で完成する。

③開眼供養⇒入魂の時期。納骨を法要に合わせて行う場合は四九日又は一回忌に行う。納骨のみを行う場合は、法要なしで家族又は親族のみでこじんまりと行う。

次に文献からの情報。

①大石誠之助の墓が建立されたのは、



大石誠之助墓
堺利彦揮毫



幸徳秋水墓
小泉三申揮毫

堺が慰問した一九一一年五月三日の数年後、大正の初めで二人の刑死者の中で最も早かった。(中略) 幸徳秋水の墓は、誠之助のそれをモデルに建立された。(田中伸尚『大逆事件―死と生の群像』)

②大石誠之助という墓碑名が堺の手によって揮毫されたのはこの折(五月三日)であるが、墓石が建てられれたのが何時のことか定かでない。二人の刑死者の中で最も早かったと言われている。(辻本雄一『熊野・新宮の大逆事件前後』)

③刑死者の中で真っ先に墓碑が建てたのは大石誠之助氏のみだった。(中略) 堺さんもこれなる文句あるまいと言われるも早く早速建てることにし、堺さんの口添えで小泉三申氏に染筆を煩わしたのがそれです。(幸徳富治『叔父幸徳秋水』『秋水全集別巻一』)

④大杉栄が一九一四年一〇月一五日に発行した日刊平民新聞の初号に幸徳駒太郎から送られてきた秋水の墓の写真が載っている。この事から秋水の墓が以前に既に完成していた事が判る。(神崎清『革命伝説大逆事件④』)

以上の情報を基に秋水の墓の建立日を考察すると次の仮説が考えられる。

仮説①大石の墓の完成は、一九一一年五月三日の堺訪問日から三か月後とする。と八月三日となる。そして初盆の八月一〜一六日に開眼供養したと仮定。堺(東京)が大石(新宮)の初盆に出席、あるいは出席せず遺族から墓のサイズ、形等情報は入手、検討。その情報と小泉三申の揮毫書と一緒に幸徳駒太郎へ郵送。駒太郎はそれを基に秋水の墓石を発注。三か月後の一月下旬から二月月上旬に完成し翌一九一二年一月二十四日「一回忌」に開眼供養した。

仮説②大石の墓が一九一二年一月二四日「一回忌」に合わせて作られ開眼供養したと仮定。駒太郎は、堺経由でその墓情報と小泉の揮毫書を手紙。それを基に墓石を発注。一九一二年中に完成し翌一九一三年一月二十四日「三回忌」に開眼供養した。

仮説③大石の墓が一九一三年一月二四日「三回忌」に合わせて作られ開眼供養したと仮定。秋水の墓石は、一九一三年中に完成し翌一九一四年一月二十四日「命日」に開眼供養した。

結論

堺利彦が一九一四年四月二二〜二五日中村に滞在し十九の短歌に詠んだ秋水の墓は、現在の小泉三申揮毫の墓ではない。行春の青葉の桜に鶯の啼きしきる処君が墓立つ

理由①秋水の遺骨が中村に到着し葬儀が行われたのが二月七日。それから墓を発注したとしても完成は、三か月後の五月初旬となる。

理由②建立日が最も早い仮説①とする。大石の墓石の完成は八月初旬。秋水の墓の完成はそれから三か月余り後の一月下旬〜二月上旬となる。

理由③堺は「秋水の墓参をすませた後、墓石の建設 遺産・印税の分配について駒太郎と相談した。」(前掲『革命伝説』) 結論二

秋水の墓石は三回忌に合わせて作られ、建立日⇒改元供養は一九一三年一月二四日と推測する。

理由①、官憲の厳しい介入と監視の中、初盆に開眼供養する事は、当時の社会状況から考えづらい。

理由②、法事以外の日に開眼供養することは、区切りの点から可能性は低い。

理由③社会状況、区切りの点で最も無理がない。更に大石の墓の開眼供養を「三回忌」でなく「一回忌」に行うのは、国家権力犯罪と冷たい世間に対する遺族の無言の反抗であり意地であると考えたい。

《裏面より続く》

精神、そして何にも拘らず自分自身を生きようとした堂々とした女性として文子は韓国の社会に新鮮な衝撃を与えました。このような文子の抵抗精神が韓国社会に認められて、2019年には日本人として布施辰治弁護士に就いて2番目に立て有功者として叙褒されました。その上、文子の劇的な生涯は韓国の各種のメディアが関心を引き、ドラマや小説、詩、ミュージカルなどに、遂には映画にもなりました。その文子の抵抗を辿る過程でもその出発点とも言えるべき幸徳秋水の思想や生涯も広く紹介されるようになったわけです。

今、文子は韓国開慶(ムンギン)の朴烈記念館に安らかに眠っていますが、毎日多くの参拝客を迎えています。文子はこのような韓国社会の雰囲気はどう思っているか、ちよつと気になります。一切の権力を否定し、広々とした宇宙の中で何にも拘らない自由な自分自身を生きようとした文子にとって、偏狭な国家とか独立運動とかに関連つけようとする動きには地下で苦笑いしているのではないかと思います。

幸徳秋水は韓国の独立運動だけじゃなくて、歴史、思想などに多大な影響を及ぼしました。また秋水の後を継いだ文子も自分自身を生きた女性、天皇制に象徴される国家権力に植民地朝鮮の仲間たちと抵抗した女性として韓国人の心の中に残っています。

この2人の歴史はもう100年も前の昔のことですが、2人の良心は過去の歴史に留まっっているわけではないでしょう。むしろ21世紀の今、韓国と日本、さらに東アジア社会にとって切実でしょう。

秋水が命をかけて警戒して来た、行き過ぎた愛国主義やナショナリズム、文子が抵抗した個を抹殺する国家権力の復活の兆しが頭を擡げている現在、権力を排除した民衆と民衆、人間と人間との連帯が切実な時期ではないかと思えます。

韓国での幸徳秋水、そして金子文子

国民文化研究所(韓国) 総務理事 金キム チャンドク 昌徳

舎生取義 生をすてて義を取り
殺身成仁 身を殺して仁をなす
安君一挙 安君の一挙
天地皆振 天地みなふる

この漢詩は1909年10月ハルビンで韓国の独立運動家安重根が伊藤博文を暗殺した際、これを祝う意味で幸徳秋水が直接書いたものです。元來は1910年5月アメリカのサンフランシスコで高知県出身の岡繁樹が発行した記念集書に、幸徳秋水自身が書いたもので、これこそ秋水と韓国の独立運動との関係を良く表す歴史的な背景と言えるでしょう。

周知の通り、幸徳秋水は明治維新以来絶えず強化してきた天皇制下の「国家主義ナショナリズム」に対する批判と共に、破滅と墮落への道を辿っていた帝国主義日本に警鐘を鳴らしました。平民社を中心に扇動的な日露戦争への雰囲気積極的に対抗し、戦争が日本の民衆に及ぼす悪影響を持続的に喚起することに努めます。この時期朝鮮への侵略政策も厳しく非難しました。例えば、1904年6月19日の『平民新聞』32号では「敬愛なる朝鮮」を、1904年7月17日の『平

民新聞』36号では「朝鮮併吞論を評す」を、そして1907年7月21日の『大阪平民新聞』と『社会新聞』では堺利彦と共に日本帝国主義に対する朝鮮への植民地的な支配強化に対する抗議を公表しました。

このように幸徳秋水は戦争反対だけではなく日本によるアジア侵略、特に朝鮮への侵略を強く批判しそれを行動に移した人物ですが、秋水を中心とする内部からの批判に直面した帝国主義日本が内部の整理と結束の為の地ならしとしてフレイムアップしたのが1910年大逆事件の本質と言えるでしょう。

そのような幸徳秋水の精神は東アジア特に20世紀初めの韓国の思想や歴史に多大な影響を及ぼしましたし、21世紀の今まで続いてくると思っております。しかし、残念ながら秋水が残した偉大な遺産に比べて、こちら韓国での研究や評価はあまりさかんでなかったです。恐らく秋水の出発点とも言えるべきアナキズムに対する理解不足と、韓国社会に強いレッドコンプレックスが大きな原因ではないかと思えます。しかし、近年に入つて韓国社会の多様化によるアナキズム系



安重根絵葉書 秋水漢詩



安重根義士記念館(ソウル) 中央が金昌徳さん 2019年7月訪問



金昌徳さん(中央) 中村来訪 2019年5月 第27号で紹介

列独立運動に対する新しい評価とそれに伴う次の出来事を切つ掛けに幸徳秋水はテレビなどのメディアを通して少しずつ知られるようになりました。『私は社会主義者だ』というタイトルで幸徳秋水選集も出版されました。

まず、35年及以上ぶりで帝強占期を通して最も激しい抗日武装団体であった「義烈団」の100周年です。31運動のあった1919年、金元鳳(キム・ウォンボン)を中心に結成された「義烈団」は1921年9月、金益相(キム・イクサン)の朝鮮総督府庁舎爆破事件、そして1924年1月5日金趾燮(キム・ジッパ)の二重橋事件など、武力闘争を展開した武装グループでした。1923年9月の関東大震災の際、軍部によって虐殺された大杉栄の復讐の為、ギョリュン社の中浜哲や古田大次郎などの輸入を試みたことがあったほど、日本にも広く知られていました。

1938年にはその名称を「朝鮮義勇隊」に変え1945年の終戦まで抗日闘争を続けましたが、その義烈団の行動綱領及び闘争目標を明確にしたのは、歴史学者でアナキスト独立運動家の申采浩(シン・チェホ)による「朝鮮革命宣言」(別名「義烈団宣言」)です。この宣言書では日本を朝鮮の生存を剝奪した「強盗」と規定し、暴力的革命こそ正当な手段であることを強調します。ひいては当時世界を支配して

いる略奪的で不平等的な帝国主義体制の打破を訴えています。ところで、この申采浩は1905年頃幸徳秋水の「長広舌」を読んで、初めてアナキズムを知り、共鳴するようになり、まず、引いては「日本には只、幸徳秋水1人だけがいる」という証言を残します。1929年10月7日の東亜日報には「自分は幸徳秋水の著書を読んでアナキズムに傾き始めた」という法廷陳述が載っています。このように義烈団と申采浩の抗日意識や闘争、ひいては数多くのアナキズム系列の独立運動は幸徳秋水を抜きにしては考えられないです。こんな意味で2019年の「義烈団」100周年は幸徳秋水の生涯と活動を顧みるきっかけにもなったわけです。

これに加えて考えられるのは1923年9月の関東大震災の混乱を乗じて、急遽捏造された朴烈(パク・ヨル)と金子文子夫婦による大逆事件です。この2人の闘争記録は裁判記録でよくわかりますが、朴烈の場合京城高普の時代日本人教師を通して幸徳秋水と大逆事件の真相をわかるようになりまして。又、日本人ではなくて世界人だと言つて、自分に独立した気分を高揚させてくれたという証言も残しています。恐らく朴烈の民族意識や独立への意志はこの時期に具体化したでしょう。

特に金子文子の場合、父母や国からも見捨てられた不幸な幼年時代と、7年間に亘る朝鮮での悲惨な体験を通じて虐待を受けている植民地朝鮮の表情を痛感し、天皇制を頂点にしている社会制度の矛盾に目覚めるようになりました。そして「不逞社」に合流して本格的に帝国主義日本に真っ向から抵抗します。義烈団を経由して爆弾輸入も計画します。文子は1926年栃木刑務所で23年の短い生涯を閉じますが、権力に屈しない文子の抵抗

《裏面へ続く》